

なぜ科学を語ってすれ違うのか◆目次

はじめに 1

誰が科学を支配するのか

第一章 サイエンス・ウォーズの情景……………7

疑わしい真実？

「二つの文化」とサイエンス・ウォーズ

ソーカル事件とは

事件の波紋

政治的右派・左派、それぞれの反応

カルチュラル・スタディーズ陣営からの反撃

科学者のいいぶん

戦場は思いのほか広い

ソーカル事件の評価

サイエンス・ウォーズの四つの陣営

第二章 科学者の経験は理解されているのか……………56

科学的経験の特徴

■ 新規な予測をすること

■ 統一

■ 精確さ

■ 思考実験

■ 反証を重く受けとめる

■ いかに学ぶかを学ぶ

社会構成主義者が科学者をいらだたせるわけ

第三章 科学哲学は何を問題にしてきたのか……………87

論理実証主義の挑戦

ポパーと「線引き問題」

クーンは何をいつたのか

クーンの影響

歴史的アプローチ

論理的アプローチ

第四章 社会構成主義のニヒリズム派と

ポストモダン……………134

ポストモダンを切つて捨てる論法

不愉快なスタイル

ポストモダンの言葉づかい

偶像破壊者ファイヤアイベント

わたしたちは誰を笑っているのだろうか

第五章 三つのキーワード

—— 実在論、客観性、価値 …………… 168

「実在論」のわかりにくさ

—— 真の争点はそこではない

「客観性」の意味を整理する—— 真の争点

科学は価値にとられないのか

ローカル構成主義 vs. グローバル構成主義

第六章 社会構成主義の自然主義派 …………… 201

範型(パラダイム)となる例

—— ポール・フォアマンの量子力学研究

自然主義とは何だろうか

社会構成主義の自然主義派とは

ブルアのストロング・プログラム

パストゥール、プーシエ、自然発生

対称律の何が問題なのか

ラトゥールの過激な対称律

ご都合主義の方法論

実験室の人類学

方法的全体論 vs. 個体主義についてひとこと

社会構成主義は科学を貶めるか

第七章 合理的論拠の役割 …………… 250

クーンは科学の合理性を否定したのか

ブルアの因果律—— 合理的論拠は排除される

合理的論拠は原因になる

社会学化された合理的論拠

妥協策、または中道路線はあるのか

「決定不全性」の不当な援用

思考実験—— ひとつの挑戦状

第八章 科学の民主化 …………… 292

左派による民主化への素案、長所と短所

① 民主的な科学は民主的な社会から？

——マルクス主義的テーゼ

② 何が事実かを交渉で決める？

——アンドリユー・ロス

③ 特権的な被験者？——極端な相対主義

④ 科学の神秘性を取り除く？

——大衆のための科学

⑤ 社会関係の公開？——コリンズとビンチ

科学の民主化の支柱

■ 代表制民主主義の特長を活かす

■ 理論は相対的に評価するしかない

■ 正しい代表を得る

■ 幅広い可能性を考える

第九章 社会的行動計画をもつ科学 …………… 326

ブライアンの進化論攻撃

グールドとIQ論争

教育の中身を多数決で決められるか

——民主的な解決策の課題

フェミニズム科学評論の指摘

科学における価値の積極的な役割

「ウーマン・ザ・ギャザラー」モデルが問うもの
科学者にできること、科学哲学者にできること

おわりに 357

謝辞 366

訳者あとがき 367

参考文献

原注

索引